

新装開店 桐生コース

最近注目を浴びている里山。遊園地、山道、神社、さらにはキリスト教史跡を巡る群馬のコース。

桐生」コース 群馬県 No.54
JOA公認 No.247 10 km 10 ポスト

難コースからの変身

今回も群馬のコースです。昭和49年9月12日開設の「桐生」コースの新しいマップが完成し、2年近く前にポストの埋設が完了していた新コースがいよいよ共用開始となりました。PCファンにとっては待ち焦がれた再開です。

古い、1:25,000時代のマップを見るとコース名の表記は現在と同じ「桐生」となっていますが、開設当時の登録コ

ース名は「桐生が岡公園」。「吾妻山」を越え、山の北麓まで巡る難コースでした。

昭和53年6月4日に初挑戦した際は、山稜にあった第3ポストに大苦戦。尾根道をちょっと下ったところにあったポストに気づかず、同じ道を右往左往しているうちに時間ばかり経過してしまい、中止も話題に上ったほどでした。その後なんとかポストを発見、6時間半もの時間をかけて制覇しました。

翌年にも再訪しましたが、何故かこのときも迷い、とんでもない急斜面をよじ登って第3ポストに到達するという思い出深いコースとなっていました。

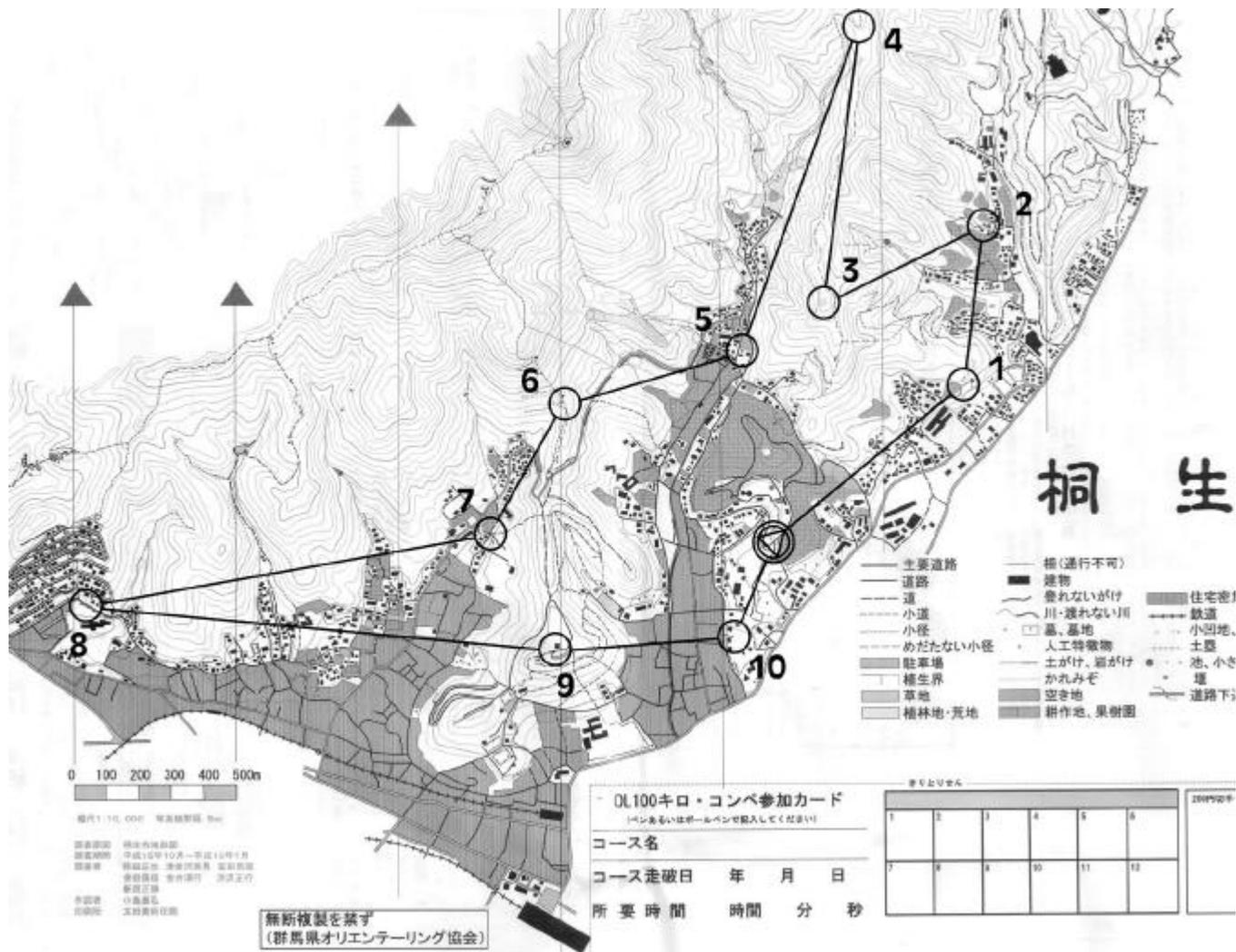
それから四半世紀以上が経過した今回、熊の出没等の事情から、「吾妻山」の南麓にコースは移設され、新たなスタートを切る運びとなりました。「懐かしい」というより、新設コースを回るような気分です。

前回は、自宅の春日部から東武伊勢崎線「足利市」駅で一旦下車し、徒歩で国鉄両毛線「足利」駅に向かい、「桐生」駅に到達しました。今回は「浅草」駅から、東武特急「りょうもう」号に「館林」駅まで乗車し、ローカル線の東武佐野線を経由してJR両毛線へ。

「桐生」駅からは歩いてスタート地点の「桐生が丘遊園地」を目指します。雰囲気のある上毛電鉄「西桐生」駅前を通り、約20分で到達します。途中には地図販売所の「山咲屋(0277-22-9842)」があるのですが、日祝祭日は休み。群馬県OL協会の郵送販売が便利です。

賑わう遊園地から出発

スタート地点の案内板は遊園地駐車場にあるトイレ脇に設置されています。マスターマップも判読可能ですが、注



意事項等が消滅してしまい、「桐生 54」としか表記がないのは初心者にとっては余りに不親切。普及を考えるとこれではマイナスです。熊の回避が主な目的のコース変更でしたので、街中中心のコースと思いきや、しっかりと山道が組み込まれています。しかもこれがハードなのです…。

地方のレジャー施設が集客減で次々と閉鎖に追い込まれるなか、この日の「桐生が丘遊園地」はあいにくの曇天ながら多くの来場者。駐車場も一杯で、路上にも溢れています。賑わいを横目にコースを写し取り、13時9分にスタートします。

高台にある遊園地から坂を下り、住宅地の間を抜ける生活道路をたどって「法経寺」「桐生北中学校」を過ぎると霊園に到着。マスターマップのポスト位置に若干のズレがあるため一瞬探してしまいますが、小さな神社の前で第1ポストを発見します。標準サイズの立派なポストに頼もしさすら感じます。

小道を下って「青蓮寺」境内を通り抜け、集落の中を北に向かいます。「市街地」のイメージも薄らぎ、この辺りから閑静な雰囲気になります。第2ポストがあるのは「赤城神社」。神社というにはいささかちぢまりとしていて、祠といってもいいほどのところで



一旦出戻り、西へ。このコースの最大の難所である山間部が迫ってきます。尾根に通じるルートは慎重な見定めが必要です。安心して歩けるルートもいますが、こういう緊張感が抱けるところがコースの中には何箇所かあってこそ本当の面白味が生まれます。南北に伸びる尾根道を北に向かうと林の中に第3ポストが置かれています。新コースができるまでは、地主以外一切利用しないとされるルートの途中であり、正に「本格コース」と言えるでしょう。

ここからが一層冒険心を満たしてく

れるワイルドなルートが続きます。地図の凡例でも「めだたない小径」とされている破線表記は決して嘘ではありません。獣道然とした不明瞭な道を延々と突き進んでいくこととなります。道をよく見極め、藪に迷い込まないよう細心の注意が必要です。途中、視界の開けるところでは眺望を楽しみつつ歩きに歩き、明瞭な小道にたどり着くと、正面上方に第4ポストが顔を覗かせます。ホッと一息つける瞬間です。ポストは大きく傾いていたものを、ひとまず元に戻してはおきましたが、再度しっかりした埋設が必要な状態でした。

心細いルートから一転、第5ポストへ向かう下りのルートは明瞭なものとなります。沢沿いに下るルートを正しく見出せば問題ないでしょう。覆いかぶさってくる藪もなく、足取りも軽快。森を抜け、旧コースのルートと合流すると、堰の横で舗装道路となります。ここは国土地理院時代のマップでも道路から小道に表記が切り替わっていて「ほら、ここで変わったんだぞ」と28年前、父から教えられたことを今でも鮮明に覚えています。更に南下すると「八坂神社」境内で第5ポストが確認できます。ここで雨が降り出し、雨具を忘れてきたため、10分ほど本堂で雨宿り。

旧マップには記載のない主要道路を歩き、詩文的にはしばしの中休み。山菜取りをしているおばさんに出会った以外はトピックのない区間から、新地図にも記されていない小道(マスターには加筆されています)を上ると尾根道との分岐で第6ポストが姿を見せ

「吾妻山」への立派な歩道を逆に下り、橋を渡って最短路を探します。ここははっきりすると「吾妻公園」へ下りそうになってしまうところ。尾根を取り違えるパラレルエラーに注意が必要です。で、私はこのミスには陥らなかったものの、何故か尾根から第7ポストに直行するルートが分からず、舗装道路をぐるりと回って石碑横のポストに到達しました。

好き嫌い? 距離を稼ぐポスト

第8ポストはPCとしての距離を確保するために設定されたようで、退屈さは否めません。しかし、ここをカットしてしまうと余りにコンパクトなコースになってしまい、回り応えという観点からは物足りなくなってしまう。好みが分かれるところ。個人

的には多少こうした区間があっても10kmコースは確保して欲しいと考えています。短くて易しいばかりのコースでは、回を重ねるほど、踏破後の達成感が得にくくなってしまいますので…。

再び雨が落ち始めるなか、山裾の道路を西に向かいます。歩くこと20分、「聖フランシスコ修道院黙想の家」の敷地内にあるポストに到達します。キリスト教に関する石像が点在するなかに立つポストというのも不思議な光景です。

同じ道を引き返すのもつまらないので南の道路に下り、第9ポストへ。降りしきる雨の中、頭にタオルを巻いて急場を凌ぎ、コンビニを探します。しかし裏通りのためか、結局傘を入手することができないまま「水道山公園」の下に到着。坂道を登ったところで一層雨がひどくなり、木陰で2度目の雨宿り。13分の中断ののち、山の上にある第9ポストまで一気に歩を進めます。ここで屋根付の休憩所を見つけ、トイレの前に立つポストを遠目に確認したうえで、3度目の雨宿りに入ります。しかし、徐々に日も落ち始め、一向に止む気配もないことから、17分後に意を決して最終ポストへ。

公園を下り、住宅街を横切ると動物園の入口近くに置かれたポストは難なく発見できます。本来ならここから動物園の中を歩いてゴールとなるのですが、この日は午後スタートの上、3度の中断で17時を回ってしまい、閉門となってしまいました。雨中、大回りしてスタート地点まで往復するのも憚られ、ここで終了としました。

程なく見つけたコンビニで傘をやっと入手。近くのトイレで着替えを済ませ、ここに至ってようやく心地つくことができました。桐生駅でかき込んだカレーライスは冷えた体に沁み込んで、もう格別!

28年前も雨に見舞われた「桐生」コース。今回もまたまた雨となりましたが、変化に富んだ新生コースに大満足の日となりました。お薦めです。

(2006年10月1日 踏破)
(大高竜亮)